

性同一性障害者を理解するための学習会

本当の自分を生きる

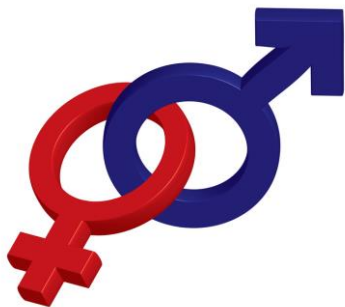
講 師 石塚 将輝 (GID 西多摩)
日 時 2017年8月20日(日)
1:00~2:30 pm
会 場 日本バプテスト川越キリスト教会
(川越市石原町 1-32-3)

人は皆、自分が女性、または男性であるという自覚をもって生きています。そして大多数の人は、身体の性別と同一の性の自覚をもって生きています。しかしまれに、自身の身体的性別は理解しているものの、その性別とは一致しない自覚を持つ人もいます。身体の性は男でも心の性は女、あるいはその逆という状態です。それを医学的には**性同一性障害 (GID*)**と言います。

このような障害を持つ人が、私たちの社会の中で、どのような苦痛や困難の中で生きておられるでしょうか。我が国では2011年5月に「性同一性障害者の性別の取り扱いの特例に関する法令」が制定されましたが、私たちの多くは無頓着に暮らしてきているのではないのでしょうか。これを機会に認識を新たにしたいものです。ご参集下さいますよう、ご案内いたします。

私たちの教会仲間**石塚将輝**さんは1951年生まれ。女性として結婚し一児を生み育てましたが、自身の性同一性障害に、幼少より長い間苦しんできました。そして50才の時にカムアウトし、以後男性として生きてきました。「GID 西多摩」を立ち上げ、同じような障害に悩む人たちの支援活動に当たっています。

(*G I D : Gender Identity Disorder)



加藤 享
学習会世話人
日本バプテスト川越キリスト教会牧師
049-224-6283

主に見守られて

8月20日(日)礼拝の後「性同一性障害」の学習会をしました。まだ発症の原因が解明されていない「性同一性障害」、当事者一人ひとりが抱える問題や生き辛さを感じるが事象が画一化されておらず、目に見えにくいこともあり、より理解されにくくなっています。しかし、ある乳酸菌飲料メーカーでは「カミングアウト」を強要されたり、またある企業ではMtF(男性から女性に)の当事者に男性に戻って仕事ができないか?などと無理を強いられる事柄が多く「性同一性障害」という言葉だけが独り歩きしていて、その実態を知っている人は多くありません。僕は自身がその当事者でもありますから、神さまの御心に従いお互いの違いを認め合い尊重し あえれば幸せなことと感じています。そしてこれからも主のご計画により今回のような学習会を継続していかれるように研鑽を積んで行きたいと考えています。

(川越キリスト教会会員・石塚将暉)